

洋上空域における管制間隔の短縮

縦間隔	平成17年4月以前	平成17年4月～	平成20年8月～
	150～120海里 (15分)	50海里	30海里
		短縮	短縮
横間隔	平成10年4月以前	平成10年4月～	平成20年8月～
	100海里	50海里	30海里
		短縮	短縮

- ※ 30海里的管制間隔は、RNP4の運航承認を有する航空機相互間に適用される。RNP4とは、全飛行時間の95%における横方向の航法誤差が±4海里以内となる航法精度をいう。
- ※ 現在、我が国の洋上空域を飛行する航空機のうち、約18%がRNP4承認機であり、今後漸次増加する見込み。
- ※ 横間隔30海里を適用した経路設定は、RNP4承認機の増加状況を踏まえた上で実施する。

【参考】

洋上空域における管制間隔短縮導入効果の試算

消費燃料削減量(年間) 約2,480万ポンド
約1,400万リットル
ドラム缶(200ℓ)換算で、約7万本

CO₂削減量(年間) 約34,400トン
一般家庭(年間排出量5.3トン)で、約6,500世帯分
一般家庭の年間排出量は、(独)国立環境研究所・「温室効果ガスインベストリオフィス」による

削減金額(年間) 約12億7千万円
シンガポール市場のケロシン価格の2008年1月～6月の平均値(1ガロン=3.2ドル)で算出
1ドル=108円(2008年8月5日の為替相場)で算出

- ※ 1. 2007年8月の飛行実績を基に、すべての航空機がRNP4承認を受けたB747-400型機と仮定し、現行の縦間隔50海里を適用した場合と縦間隔30海里を適用した場合をシミュレーションした結果を比較したもの。(電子航法研究所実施)
- 2. 試算結果は我が国の洋上空域内のみではなく、目的地までの飛行により得られる効果。